

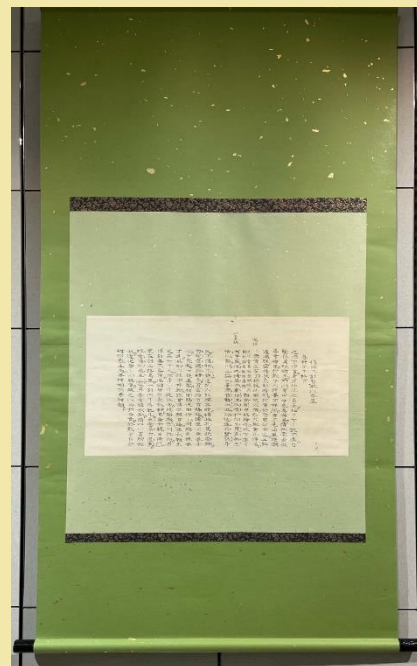
令和6年度 安井息軒記念館秋企画

米沢藩士雲井龍雄は反逆罪で斬首され、その首は、小塚原の刑場にさらされました。息軒に師事したのは約1年。この間、三計塾の門下生たちと交わる中で、彼は時勢への関心を強くしていきます。奥羽越列藩同盟において檄文「討薩檄」を起草し、新政府では、集議院寄宿生をわずか1か月で辞めさせられ、痛烈に政府を批判した漢詩を残して下野しました。開明的で柔軟な頭脳を持ちながら熱く時代を駆け抜けていった彼の短い生涯を探ります。



「討薩檄」(米沢市上杉博物館)

戊辰戦争時、奥羽越列藩同盟を結んでいた奥羽・北越34藩に対して、送られたもので、この戦いが義の戦いであることを迫りに満ちた名文で宣言し、諸藩士の志気を鼓舞しています。何度も推敲したようで、何枚も草稿が残っています。



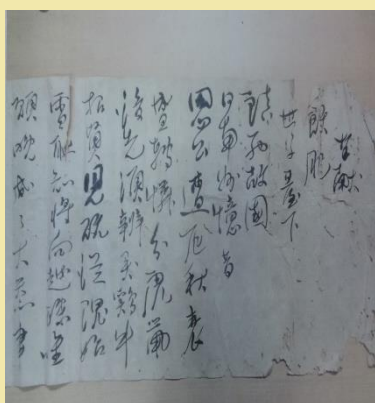
「將辭三計塾賦以呈息軒先生悟下」
(米沢市上杉博物館)

三計塾を去る際に、師息軒に対する万感の思いを込めた別れの漢詩です。孔子と息軒を並べ、その境遇と学問探究への姿勢、そこに集う優秀な門弟たちなど、それらはまさに同じであり、そんな息軒のもとを去り難く、二度と会えないだろう自分に対して、師の一言が欲しいと痛切に願う龍雄の気持ちがほとぼしる漢詩です。



「雲井龍雄像」
(米沢市上杉博物館)

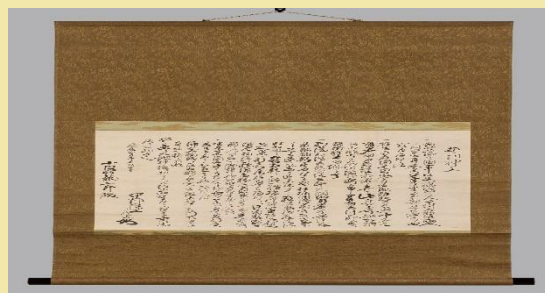
作者、制作年代は不明です。古写真をもとに描かれているようです。きれいな目鼻立ちの若者だったようです。伝馬町で龍雄の斬首を命じられた山田浅右衛門(8代目、当時17歳)は、「龍雄は至って小柄で、刑場の露と消える刹那(せつな)にも神色自若として控えていた有様は敬服のほかありません」と伝えています。



「慶応四年、雲井龍雄より伊東祐帰へ謹呈漢詩」(日南市)

龍雄は、飢肥藩世子とも交際があったようです。

伊東祐帰が龍雄の寓居を訪れた際に、この漢詩を作って贈ったとあります。



「雲井龍雄宛甲村休五誓詞」
(米沢市上杉博物館)

慶応4年3月31日に、二人の間で交わされた誓詞です。「列藩和解」「万民安堵」などの言葉から彼らが目指していたものが窺えます。